

指定校番号	30044	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第三中学校	校長	日名貞 秋典	生徒指導主事	西村 直朗
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『三中チャレンジカップ』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「課題発見・解決力」	2	「高い志・使命感」	3

取組のねらい『キーワード：競い合い・認め合い・励まし合い』

- 年間を通して縦割り集団で活動を仕組み、互いに競い合い、認め合い、励まし合う中で自治的集団をつくる。
- 生徒が目的意識を高め、様々な行事や授業、点検活動等に主体的に取り組むことができる。
- ピア・サポート活動をとおして、課題解決する力をつけさせる。
- 3年生を中心に企画・運営をしていく中で、公正に、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなど、社会生活に必要な態度を養う。

取組の具体的内容『キーワード：年間を通して縦割り集団で活動』

本校の弱みは、生徒が熱しやすく冷めやすいところにある。学校行事では、様々なリーダーを中心に活発に取り組むことができる。しかし、リーダーを務めた生徒が、普段の生活に戻ると丁寧に授業に取り組めていない実態があった。普段の生活から上記「取組のねらい」を意識させ、目標の達成に向け、年間を通して取組を進めた。以下が取組内容である。

- 年間を通して縦割りの集団で、行事や点検活動に取り組む。
- 月ごとの全校集会（全校朝会または頭髪服装点検）で取り組む活動の詳細や結果を生徒会から発表し、活動を得点化する。

三中チャレンジカップ年間計画

実施時期	実施内容	担当する委員会(教科)
4月	集団行動・校歌	保健体育科
5月	号令GP	生活委員会
6月	自主勉強ノートGP	生徒委員会
9月	運動会 靴そろえGP	保健体育科 美化委員会
10月	学習発表会(合唱)	生徒会執行部
11月	号令GP 自主勉強ノートGP	生活委員会 生徒委員会
1月	持久走GP	保健体育科



< 活動の様子 >

取組の課題・創意工夫『キーワード：教職員の取組に対する趣旨の共有』

上記の「三中チャレンジカップ年間計画」にある取組は、今年度、新たに始めた取組ではなく、昨年度まで各専門委員会や学校行事の中で実施してきたものである。昨年度との大きな違いは、全ての取組を縦割り集団で実施しているところにある。

年度初めの4月に縦割り集団で実施した「集団行動と校歌」の練習では、3年生はリーダーとしての自覚を、1・2年生は必死に指導してくれる3年生に応える姿勢を身に付けさせることを目的に取組を計画した。

号令 GP や自主勉強ノート GP は、学校行事が無く身近な目標が設定しづらい時期に計画をし、互いに競い合い・認め合い・励まし合うことを通して集団の力を高めていった。

このように、各取組の実施時期については、生徒の意欲付けにつながるため十分に議論する必要があった。また、運動に偏った取組にはせず、学習面で活躍できる生徒が輝けるよう内容にも配慮した。

現時点での「三中チャレンジカップ」を進めていくうえでの課題は、全教職員が取組の趣旨を理解し、同じベクトルで取組を進めることにあると感じている。

取組の成果（効果）『キーワード：年間の見通しを持って取組を考える』

初動の取組が1年間の取組の充実につながるということである。

年度初めに3年生には、「『三中を劇的に変える。』それだけの力を持っている。これからの三中のスタンダードとなってほしい。」とたき付けた。1・2年生を導く者としての自覚を持ち、指示するだけでなく、しっかりと関わりを持つよう指導した。

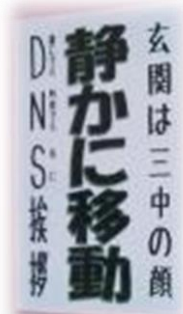
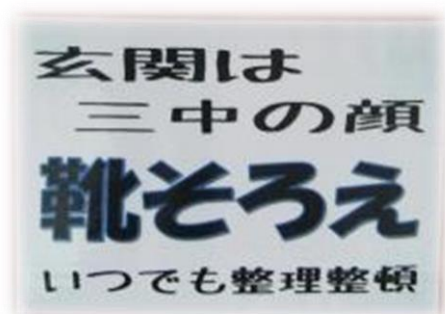
その結果、1・2年生の中に「3年生のために頑張らなければ。」という思いの醸成につながることができていると感じる。

今後の展開『キーワード：あらゆる活動につなげていく』

例年、運動会だけ行っていた縦割り集団の活動を、今年度はあらゆる活動に広げることができた。しかし、今年度「三中チャレンジカップ」をここまで進めることができたのは、生徒の力と主導した教職員の力に依るところが大きいと思われる。本取組の内容や効果を検証し、今後も継続して実施できるようシステム化を考えていく。

他教科との関わり『キーワード：取組後も継続して取り組ませる』

各教科との結びつきが多い取組であるため、取組期間中だけで終わらせるのでは意味がない。教職員が生徒に対し、どれだけ意識を持って行動させ続けるかが大切である。どんなに小さな取組でも、同じベクトルで指導し続けることが、校内の生徒指導体制の構築につながっていると考える。



平成30年度三中チャレンジカップ

	11月 自主勉強グランプリ	1月 校歌グランプリ	現在の合計
赤団	40		390
青団	10		200
黄団	20		220
緑団	30		190